

IT 戦略にイベント駆動型の自動化を含めるべき、その5つの理由

Event-Driven Ansible でスピード、一貫性、イノベーションを実現

デジタルビジネスには、信頼性が高く回復力のある IT サービスが必要です。自動化はチームの力を倍増させ、作業の複雑さを軽減し、再現性と効率性を高めます。事実、調査対象のビジネスエグゼクティブの 80% は、IT 自動化の導入は組織の将来の成功にとって「極めて重要」であると述べています。¹

イベント駆動型の自動化は、エンドツーエンドの IT 自動化への次のステップです。イベント駆動型の自動化により、オペレーショナル・インテリジェンス、サービスリクエスト、意思決定が結び付き、指定したイベントや状況が生じた場合に、事前定義した自動化アクションが常に迅速に開始されます。イベントには、ネットワークやシステムの速度低下、構成ドリフト、対応が必要な状態の変化、アクションが必要とされる新たなサービスチケットのエントリーなど、IT 環境で発生するほぼすべてのものが含まれます。イベント駆動型の自動化を使用すると、継続的な管理、ユーザーとデバイスの管理、プロビジョニング、チューニング、スケーリングなどの Day 2 オペレーションをスピードアップできると同時に、重要な優先事項の妨げになるルーチンタスクを排除できます。

[Red Hat® Ansible® Automation Platform](#) に、新しくイベント駆動型の自動化機能が搭載されました。[Event-Driven Ansible](#) を使用すると、IT インフラストラクチャ全体のさまざまな運用上のニーズに対応する、高度なエンドツーエンド自動化のシナリオを迅速に作成できます。

ここでは、Ansible Automation Platform でイベント駆動型の自動化を使用して、運用を単純化する 5 つの方法を紹介します。

1 問題とリクエストを解決する

問題がユーザーによって報告された場合も、サードパーティのインフラストラクチャ監視ツールによって特定された場合も、自動的に対応できます。Event-Driven Ansible は柔軟であるため、必要な対応レベルを正確に指定できます。たとえば、システム、ネットワーク、またはセキュリティの監視ツールが潜在的な問題を検出すると、Event-Driven Ansible はシステムを自動的に再起動、リセット、またはシャットダウンしたり、監視ツールからのインテリジェンスに基づいて何が起こったのかをスタッフに知らせるサービスチケットを生成したりすることができます。手作業による介入は一切不要です。

割り込み主導の仕事スタイルから、潜在的な問題が喫緊の問題になる前に対処するスタイルに移行することで、平均解決時間 (MTTR) を短縮し、大量の日常的なリクエストに迅速に対処し、繰り返しの作業ではなく重要な優先事項に集中し続けることができます。

2 スキルギャップを埋める

重要な知識をチーム全体ですぐに共有できます。Event-Driven Ansible を使用すると、重要な情報とプロセスを Ansible Rulebook という形式で文書化できます。単純な if-then ルールを使用して、特定のイベントに対する望ましい応答を定義するだけです。Ansible Automation Platform のシンプルで人間が判読できる自動化言語により、チーム全体で自動化の信頼できるコンテンツと知識の作成、共有、レビュー、管理が単純化されます。

情報とプロセスを実行可能な形式で文書化することで、高度なスキルを持つスタッフから知識を取得し、それをチームメンバー全員で共有できます。主要なスタッフが退職しても知識は組織内に保持され、より多くのスタッフが高度なタスクを実行できるようになり、一貫した管理と運用が維持されます。

¹ Harvard Business Review Analytic Services (Red Hat 後援)、「[IT オートメーションで主導権を握る。オートメーション戦略の推進役を務める IT リーダー](#)」、2022 年 1 月。

3 イノベーションへの注力

熟練したIT運用スタッフを組織にとって最も重要な業務に再び集中させることができます。Event-Driven Ansibleを使用すると、ITインフラストラクチャを自動的に拡張、調整、管理できます。サードパーティのインフラストラクチャ監視ツールが提供するパフォーマンスデータを使用して、システムの調整、割り当てられたリソースの調整、ストレージ、処理、ネットワーク帯域幅の管理をリアルタイムで行うことができます。その結果、高性能で回復力のあるITリソースを、少ない労力で迅速に提供できます。

日々のITインフラストラクチャ管理を自動化することで、ビジネスニーズをサポートし、従業員の満足度を向上させる、より革新的で興味深いプロジェクトへとチームの焦点をシフトすることができます。

4 リスクを軽減する

システムを自動的にポリシーに準拠させ、リスクを軽減できます。Event-Driven Ansibleを使用すると、承認された企業ポリシーとシステム構成に関する信頼できる唯一の情報源を作成し維持できます。Ansible Rulebookでポリシーと設定を定義すると、Ansible Automation Platformはそれらを自動的にかつ即時にシステムに適用して、望ましい状態を維持します。Rulebookの再検討や保守を行って、コンテンツが組織の要件を長期的に満たすようにすることができます。

コンプライアンスを自動化することでヒューマンエラーの可能性を減らし、ポリシーを毎回同じ方法で適用できます。また、セキュリティイベントに短時間で対応して、リスクと影響を軽減できます。

5 効率を向上する

完全に自動化されたワークフローを作成して、IT組織のあらゆる側面で運用を効率化できます。Ansible Automation Platformを使用すると、ほぼすべてのプロセスを最初から最後まで自動化できる柔軟性が得られます。さまざまなイベントソースに基づいて自動化されたアクションを開始できます。また、チケットの生成やファクトの収集から高度な修復や対応まで、Ansible Playbookまたはモジュールに記述するアクションはすべてRulebookに含めることができます。Event-Driven Ansibleコンテンツコレクションには、多くのイベントソースのプラグイン、Ansible Rulebook、その他の自動化コンテンツが含まれているため、短時間かつ少ない労力で開始できます。

統合プラットフォームを使用してIT全体を自動化することで、複雑さを克服し、組織の効率を向上させ、一貫性のある運用状態を維持できます。

「Event-Driven Ansibleは、回復力が高く一貫性のあるカスタマーエクスペリエンスを提供する必要があるデジタル企業にとって、ゲームチェンジャーになる可能性があります」

— IDC Jevin Jensen氏

IDC Link、「[AnsibleFest 2022: Red Hat Ansible Expands to AWS and into Event-Driven Automation, Project Wisdom Looks to the Future of AI](#)」、2022年10月、Document #US49797022。

Event-Driven Ansibleの詳細

ansible.com/event-drivenでは、インタラクティブで自分のペースで進められるラボ、有益な動画、その他の役立つコンテンツをご利用いただけます。

Event-Driven Ansibleに関するアナリストの見解

[IDCのAnsibleFest 2022に関するQuick Take](#)をお読みになり、イベント駆動型の自動化の将来について詳しくご覧ください。



Red Hatについて

Red Hatは、[受賞歴のある](#)サポート、トレーニング、コンサルティングサービスをお客様に提供し、複数の環境にわたる標準化、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、複雑な環境の統合、自動化、セキュリティ保護、運用管理を支援します。

アジア太平洋
+65 6490 4200
apac@redhat.com

オーストラリア
1 800 733 428

インド
+91 22 3987 8888

インドネシア
001 803 440 224

日本
03 4590 7472

韓国
080 708 0880

マレーシア
1 800 812 678

ニュージーランド
0800 450 503

シンガポール
800 448 1430

中国
800 810 2100

香港
800 901 222

台湾
0800 666 052

f fb.com/RedHatJapan
twitter.com/RedHatJapan
in linkedin.com/company/red-hat